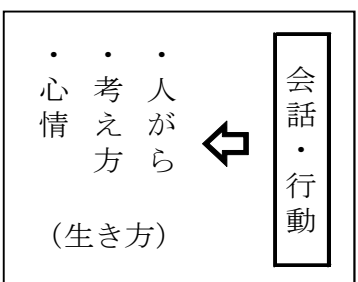


冒頭「『まだびしょびしょみたいだよ。』」

一、一の場面の初めを読んで、登場人物の位置を確かめましょう。

| | |
|--------|----------|
| マサエ | こたつ |
| おばあちゃん | |
| おかあさん | 台所 |
| お父さん | とまり番(仕事) |
| おじいちゃん | おふる屋さん |



二、マサエの会話を初めから順に四つ書き出し、マサエの会話について思うことを書きましょう。

| | |
|-----|--|
| 会話文 | 「お母さん、わたしのスキーぐつ、かわいてる。あした、学校でスキーの日だよ。」 |
| | 「かわいているといいけどな。あんなにおそくまで、すべつてなきやよかった。」 |
| | 「うへえ、冷たい。お母さん、どうするう。」 |
| | 「かわくかなあ。なんだか、まだびしょびしょみたいだよ。」 |

二、マサエは、どんな子だと思いますか。一言でまた、その理由を書きましょう。

思ったこと

深める発問の例

① 文末表現

- ・ あした、学校でスキーの日だよ。
- ・ あした、学校でスキーの日なの。
- ・ うへえ、冷たい。お母さん、どうするう。
- ・ うへえ、冷たい。どうしよう。

- ・ かわくかなあ。なんだか、まだびしょびしょみたいだよ。
- ・ かわくかなあ。なんだか、まだびしょびしょみたい。

『自分のスキーぐつなのに、人任せな態度』

※ マサエの他者依存的な言い方を、自立的な言い方(自己解決的な言い方)に置き換え、比較させることによってマサエのイメージを描かせることにした。

② 位置関係

マサエ：暖かいこたつ
お母さん：台所で冷たい水仕事

当時は、暖房も温水器の設備もない時代

わらぐつの中の神様 ② 一の場面全体

一、一の場面を読んで、スキーぐつのイメージを一言で表しましょう。
また、どの表現でそう思ったのか、根拠となる言葉や文を書き出しましょう。

| | |
|---------------------|--|
| スキーぐつのイメージ (一言で) | 根拠となる言葉や文 |
| | <p>・やつぱりいつものようにぐつしより ・しめっぽい新聞紙の玉 ・くつの中はじわりと冷たくて、せなかまでぶるつとなり そうです。 ・ぎゅうぎゅう力を入れておしこむと、ぬれたビニル皮が ぽっこりふくらんで、まだいくらでも入りそうです。</p> |

※ みんなと話し合った後の、スキーぐつのイメージ

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

二、同じようにわらぐつのイメージを一言で表しましょう。

| | |
|--------------------|---|
| わらぐつのイメージ (一言で) | 根拠となる言葉や文 |
| | <p>・わらぐつはいいもんだ。あつたかいし、軽いし、すべら ね。そうそう、それにわらぐつの中には神様がいなさる でね。</p> |

※ みんなと話し合った後の、わらぐつのイメージ

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

「一昔、…」 「目の前にうかんでくるようです。」

一、おみつさんは、どんなむすめさんですか。一言であらわしてみましよう。

どんなむすめさん
(一言で)

根拠となる言葉や文

・体がじょうぶで、気立てがやさしくて、いつもほがらかにくるくる働いていたので、村じゅうの人たちから好かれていました。

◇国語辞典
気立て…心の持ち方

おみつさんのイメージ

二、雪げたのイメージを一言で表しましょう。

雪げたのイメージ
(一言で)

根拠となる言葉や文

・白い、軽そうな台に、ぱつと明るいオレンジ色のはなお。
・上品なくすんだ赤い色のつま皮は、黒いふつさりとした毛皮のふち取りでかざられています。
・見ただけで、わかむすめさんの、はなやかな冬のよそおいが、目の前にうかんでくるようです。

◇国語辞典
よそおい…外観を飾り整えること

雪げたのイメージ

「おみつさんは、その雪げたが…」 「…なだめ役に回らなくてはなりませんでした。」

一、おみつさんの気持ちだが、よくあらわれている言葉や文を三つ書き出し、分かったことや思ったことを書きましよう。
(まず、教科書に線を入れましよう。)

言葉や文 おみつさんの気持ちがよくあらわれている

・おみつさんは、その雪げたがほしくてたまらなくなりました。

・しばらくそこに立って、すい付けられたようにその雪げたをながめていました。

・あんまり長いこと立っていたので、

・けれども、市で野菜を売っている間も、あの雪げたのことが、おみつさんの頭をはなれません。

・いつもは、余計な物など、ほしいと思つたことのないおみつさんなのに、どうしたことか、この雪げたばかりは、なんとしてもあきらめられないのです。

・「ねえ、わたしを買ってください。あんたが買ってくれたら、うれしいな。」

・思い切つて、お父さんお母さんに、雪げたのことをたのびました。

二、この場面のおみつさんの気持ちを一言で表しまた、その理由を書きましよう。

一言で

理由

深める発問の例

① そののは、何をさしているか。(指示語) 前時の雪げたのイメージの復習

② 修飾語がある場合とない場合でイメージがどう違うか比べさせる

・おみつさんは、すい付けられたようにその雪げたをながめていました。
・おみつさんは、その雪げたをながめていました。

・この雪げたばかりは、なんとしてもあきらめられないのです。
・この雪げたばかりは、あきらめられないのです。

……

③ 子どもが長い文を取り出してきた場合、その文の内、特に「中心となる言葉」はどれか問う。さらに、「なぜその言葉なのか」理由を尋ねる。同時に特定の子の課題とせず、全員の課題とすることが大切。

すい付けられたように
頭をはなれませんか
思い切つて
など

「その夜……」……このうえなしです。」

一、おみつさんのしたことや考えたことを三つ書き出し、分かったことや思ったことを書きましょう。
（まず、教科書に線を入れましょう。）

| | | | | |
|---|---|---|---|------------|
| <p>おみつさんのしたことや考えたこと (言葉や文)</p> | <p>・「うちのくらしだって、たいへんなんだもの。買ってもらえないのも無理はない。そうだ、自分で働いて、お金を作る。そして、あの雪げたを買おう。」</p> | <p>・少しくらい恰好が悪くても、はく人がはきやすいように、あったかいように、少しでも長もちするようにと、心をこめて、しっかりと作り、わらを編んでいきました。</p> | <p>二、おみつさんってどんな人だと思いますか。また、その理由を書きましょう。</p> | <p>一言で</p> |
| <p>深める発問の例</p> <p>① おみつさんが考えた内容には、二つのことがあります。何と何でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うちのくらしのことを考えている。 ・自分で働いて、あの雪げたを買うと考えている。 <p>◇ うちのくらしのことを考えているおみつさんのイメージ、家の仕事や市の仕事などうちのくらしのためにすでに働いているおみつさんが、自分のためにさらに働こうとしているイメージ、この二つのイメージを深めたい。</p> <p>② 主述関係と修飾語からイメージをより確かなものにする。</p> <p>おみつさんは、……編んでいきました。</p> <p>「どのように編んでいきましたか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はく人のはきやすいように ・あったかいように ・少しでも長もちするように ・心をこめて ・しっかりと作り（繰り返し表現） <p>←</p> <p>「出来上がったわらぐつは？」</p> | | | | |

理由

「『そんなおかしな…』」 「おがみたいような気がしました。」

一、おみつさんの作ったわらぐつに対して、周りの人々はどのようなことを言ったり、したりしましたか。

家の人

- ・「そんなおかしなわらぐつが、売れるかいなあ
- ・笑ったり心配したりしました

野菜を買ってくれた人たち

- ・くすくす笑ったり、あきれた顔をしたりして、「いいや、よかっただね。」と断るのはまだいいほうで、
- ・「へええ、それ、わらぐつかね。おらまた、わらまんじゅうかと思った。」

わかい大工さん

- ・そのわらぐつを手にとると、たてにしたり横にしたりして、しばらくながめてから、今度はおみつさんの顔をまじまじと見つめました。

深める発問の例

① 「…たり…たり」の用法から、三者三様のおみつさんの編んだわらぐつに対する態度やその様子をイメージ化する。

・うちの人たち

「笑ったり心配したり」

← 笑う…出来上がったわらぐつに対してばかにしている様子
心配…家族として、おみつさんが市の人たちにばかにされないか心配している。

・野菜を買ってくれる人たち
「くすくす笑ったり、あきれた顔をしたり」

← くすくす…相手に分からないようにひそかに笑う様子

「ほかにどのようなことがありましたか？」
わらまんじゅう

・若い大工さん
「たてにしたりよこにしたり」
← 外観に左右されず、くわしく観察している

二、この場面を読んで、あなたはどんなことを思いまし

「その次の市の日までに、…」 『…』:「どうしてあんなにたくさんー。」

一、おみつさんの気持ちだが、よくあらわれている言葉や文を三つ書き出し、分かったことや思ったことを書きましよう。(まず、教科書に線を入れましよう。)

| | |
|--|--|
| <p>言葉や文 おみつさんの気持ちがよくあらわれている</p> | <p>分かったことや思ったこと</p> |
| <p>・おみつさんは、いつの間にか、その大工さんの顔をみるのが楽しくなっていました。でも、こんなに続けて買ってくれるのが不思議でもないので、とうとうある日、思い切つてたずねてと見ました。</p> | <p>深める発問の例 ① 「大工さんは、何回ぐらいわらぐつを買っていますか？」</p> |
| <p>・「あのう、いつも買ってもらつて、ほんとうにありがたいんですけど、あの、おらのつくつたわらぐつ、もしかしたら、すぐいたんだりして、それで、しよつちゆう買つてくなくなるんじゃないんですか。もし、そんなだつたら、おら、申しわけなくてー。」</p> | <p>② おみつさんの心の動きをとらえよう。 楽しみ ありがたい 不思議 不安(心配) 安心 不思議 など</p> |
| <p>・「そうですか。よかつた。でも、そんなら、どうしてあんなにたくさんー。」</p> | <p>「右のおみつさんの心の動きの内、一つだけ種類の違うものがあります。それはどれでしょう。」 ← 楽しみ…若い大工さんの顔をみるのが その他はわらぐつに対するもの</p> |
| <p>一言で</p> | <p>理由</p> |

二、この場面のおみつさんの気持ちを一言で表しまた、その理由を書きましよう。

わらぐつの中の神様 ⑧ 五の場面の2

「すると、大工さんはちよつと赤くなりました。」

一、大工さんの気持ちや考えが、よくあらわれている言葉や文を三つ書き出し、分かったことや思ったことを書きましよう。(まず、教科書に線を入れましよう。)

| | | |
|--|--|---------------------|
| <p>大工さんの気持ちや考えがよくあらわれている言葉や文</p> <p>・すると、大工さんはちよつと赤くなりました。</p> | <p>・「いい仕事つてのは、見かけで決まるもんじやない。使う人の身になつて、使いやすく、じょうぶで長もちするようになつて、おれんか、ほんとのうい仕事つてもんだ。おれんか、まだわかぞう、いいけど、今にきつと、そんな仕事のできる、いい大工になりたと思つていんだ。」</p> | <p>分かったことや思ったこと</p> |
| <p>深める発問の例</p> <p>① 大工さんとおみつさんは、どんなところがにいますか？</p> <p>おみつさんのわらぐつを作るとき の態度と比べる。</p> <p>② 大工さんは、おみつさんのどんなところが好きになったのだと思ひますか。</p> | | <p>分かったことや思ったこと</p> |

二、大工さんってどんな人だと思ひますか。一言で表しましよう。また、その理由を書きましよう。

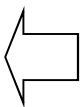
一言で

理由

| | |
|--------------|---|
| <p>会話・行動</p> | <p>←</p> <p>・人がら ・考え方 ・心情 (生き方)</p> |
|--------------|---|

一、五の場面を一言で表すと、どの言葉を選びますか。また、その根拠となる文を書き出しなさい。

| 一言であらわすと | 根拠となる文 |
|---|--|
| <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none">・雪げた・おみっさんの雪げた・おじいちゃん・マサエ・神様・幸せ <p>(あなたの考え)</p> | <p>深める発問の例</p> <p>六の場面のマサエと一の場面のマサエを比べる</p> <p>「ふうん。だけど、おじいちゃんがおばあちゃんのために、せっせと働いて買ってくれたんだから、この雪げたの中にも、神様がいるかもしれないね。」</p> <p>⇔</p> <p>スキーぐつに対するマサエの態度</p> |



○ 根拠となる文をもとにして、

(初め)

(中)

(終わり)